



グループ相談報告

1/19 (木) 「乳幼児の病気とけが」

講師：村田 祐二さん (小児科医)

8組 16名が参加。「冬に流行しやすい病気」や「普段から起こりやすいケガ」について、“気をつけること・対処法”などのお話をして頂きました。

★なぜ熱が出るのか？

病原体に対抗して免疫反応がおこり、脳から体温を上げるように命令が出ます。熱はからだがかかっているあかしです。

症状：最初は手足が冷たくなりガタガタと震えて発熱

＜こんな症状が見られたら、すぐに病院へ＞

- ①水分を受けつけない
- ②40度を超えた場合
- ③意識混濁、意識がない
- ④生後3カ月未満の乳児
- ⑤目線が合わない



★ウイルス性胃腸炎(ノロウイルス、ロタウイルスなど)

空気感染で発症するので、手洗い・うがいでだけではなかなか防げません。感染した時は、おむつや吐しゃ物をすぐに処理しましょう。

また嘔吐下痢症は水分が失われる為、経口補水液などでの補水が必要です。市販のスポーツドリンクは糖分が多く塩分が少ないので同量の水を足し、塩をひとつまみ加えると良いです。

★擦り傷、切り傷

まずは流水で傷口をきれいに洗い流すことが大切です。その後ガーゼを当てるなどの処置をしましょう。

以前は“消毒をして絆創膏を貼る”が常識でしたが、傷口に異物が残っていると、ばい菌が繁殖して悪化の原因となることもあります。

★やけど

流水で冷やす方が保冷剤をあてるよりも良いです。水ぶくれができれば、むやみに破かないようにしましょう。

★誤飲

薬…帰省した際におじいちゃん・おばあちゃんが服用している薬がテーブル上にあり、誤飲してしまうケースもあります。

ボタン電池…新しいボタン電池を誤飲すると、電流が体内に流れてアルカリ成分が流出し食道に穴が開いたり、胃潰瘍ができることもあるので十分に注意しましょう。



2/16 (木) 「子どものための救命救急講座」

講師：仙台市防災安全協会

12組 25名が参加。一人ずつ赤ちゃん用の心肺蘇生法を実践し。一生懸命に取り組むお母さんたちの姿がみられました。「人形を使って練習する貴重な体験ができて良かった。」「子どもに対して行う救命の方法を具体的に学ぶことができて良かった。」「いざという時の心構えができた。」などの感想が多かったです。

心肺蘇生の流れ

①反応の確認

耳元で、大声で呼びかけながら肩を軽く叩き、反応をみます。
子どもの場合は神経が集中している足の裏を叩いて、意識の確認をします。

②119番通報とAED手配

反応がなければ大きな声で助けを求めます。
協力者が来たら“119番通報”と“AED”を要請します。

③呼吸をみる

普段通りの呼吸があるかどうかを観察。
10秒以内で胸や腹部の上がり下がりを見ます。



④胸骨圧迫(心臓マッサージ)

肘をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、胸が少なくとも5cm沈むように強く圧迫します。1分間に100回のテンポで30回連続絶え間なく圧迫します。
乳児は2本指で、小児は両手(指を組む)または片手でを行います。

Q. のどに食べ物がつまった時は？

A. 手で子どもの胸を支え、頭を下にして背中(肩甲骨の間)を叩きます。口の中に手を入れてはいけません。

《のどに食べ物がつまりやすい要因として》
注)呼吸の息を吸うタイミングで飲み込む

子どもが落ち着かない時
泣いている時

※トイレトペーパーの芯を通る大きさの物は、飲み込む危険性があります。乳幼児の手の届く所には置かないようにしましょう。



救命ナビ(アプリ) (無料)

仙台市消防局では「応急手当」を気軽に学べて、いざという時には「119番通報」「心肺蘇生法」の一連の流れを音声ガイド付きで分かりやすくナビゲートしてくれる無料アプリ(スマートフォン)を提供しています。AEDマップでは仙台市内や全国のAED設置場所が分かります。「救命ナビ」と検索してください。